

小学校生活科での指導力向上のための改善

理科教育専修・向 平和

1. 授業の概観

本授業は小学校教科科目としての選択科目である。授業の目的は学習指導要領における「生活科」の目標のなかで自然および自己認識に関する内容を取り上げ、生活科の理念が生きるための実践について検討することである。本授業は高橋治郎教授、日詰雅博教授、金子省子教授、隅田学准教授と協同で実施している。今年度は以下のスケジュールで授業を行った。

【授業スケジュール】

第1回	向・日詰	イントロダクション／生活科の概要／栽培と飼育
第2回	向	素材の教材化
第3回	向	テーマおよび表現の工夫・子どもにとっての自然環境
第4回	向	とべ動物園教育係長による特別講義
第5回	隅田	子どもと自然とのかかわり1
第6回	隅田	子どもと自然とのかかわり2
第7回	隅田	子どもと自然とのかかわり3
第8回	向	動物病院医師による飼育に関する特別講義
第9回	高橋	遊びとは何か
第10回	高橋	子どもは遊びを通して何を学ぶか
第11回	高橋	「冬と遊ぶ」と「学校探検」
第12回	金子	自分自身の成長・家族とのかかわり(2)
第13回	金子	自分自身の成長・家族とのかかわり(3)
第14回	金子	自分自身の成長・家族とのかかわり(1)
第15回	日詰	生活科における飼育・栽培

本報告では、向が担当した1, 2, 3, 4, 8回について報告する。

2. 授業評価法

授業の評価としては各授業で行うレポートを課している。また、第2回では生き物を題材にした俳句の作成、第3回では学校探検で使用する名刺作りも行っており、その制作物も評価している。

【授業アンケート】

授業の評価アンケートに関しては、「ディプロ

マ・ポリシーによる授業評価」を活用する。本アンケートは下記の質問で構成されている。

【質問】

この授業はDPにいかに関与したと思いますか？

1. 教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を習得している。(知識・理解)
 - 1A 教育に関する知識の修得
 - 1B 得意分野の専門知識の修得
2. 教育をめぐる様々な現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。(思考・判断)
 - 2A 教育をめぐる現代的諸課題の理解
 - 2B それへの適切な対応策のあり方についての思考力・判断力の修得
3. 教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。(表現・技能)
 - 3A 教育活動に必要な高い技能の修得
 - 3B 教育活動に必要な豊かな表現力の修得
4. 自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。(関心・意欲)
 - 4A 自己の学習課題の明確化
 - 4B 理論と実践を結びつけた主体的な学習への意欲の喚起
5. 専門的職業人としての使命感や責任感と多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。(態度)
 - 5A 専門的職業人としての使命感や責任感の形成
 - 5B 多世代にわたる対人関係力の育成

3. 授業の結果

【第1回 生活科の概要】

第1回目の講義では、生活科学習指導要領の解説に基づいて、生活科の目的、取り扱う内容等について説明した。特に生活科が新設された経緯について取り扱い、生活科の授業が低学年理科、低学年社会科にならないように留意した。

【第2回 素材の教材化】

第2回目の講義では、自分・人・社会・自然の素材をどのように教材化していくか説明した。具体的な内容として、生活科の始めの方で取り扱わ

れる学校探検を取り上げた。ただの施設紹介にならないように工夫することをあげ、名刺とサイン帳づくりを実際に行った。また、校内の植物をいくつか持参し、自然のものを使った飾り作りの紹介と俳句づくりも実施した。

【第3回 テーマおよび表現の工夫・こどもにとっての自然環境】

第3回の講義では、季節性や地域性の重視とともに見付ける・比べる・たとえるなどの学習活動の工夫について説明し、伝統的な遊びや校内の植物や昆虫模型の作製などを取り上げた。

【第4回 とべ動物園教育係長による特別講義】

第4回の講義では、とべ動物園の教育係長である前田洋一氏に生活科における動物園の活用について講義していただいた。この回は今年度初めての試みであった。内容はとべ動物園が行っている移動動物園などの教育活動の紹介と今年度伊予市で観察されたアカウミガメの産卵についての報告であった。

【第8回 動物病院医師による飼育に関する特別講義】

第8回の講義では、愛媛県開業獣医師会のご協力により、実際の動物にふれあいながらの飼育に関する特別講義を実施した。2名の獣医師の方に動物とふれあう意義と動物とヒトとの間で起こる感染症などについて説明された。その後、ウサギやモルモット、トカゲなどとの触れあいを通して、学生に動物の扱い方の実習を行った。

【アンケート結果】

ディプロマ・ポリシーによる授業評価の結果を下図に示す。概ね好意的な回答を得られていることから、本授業の目的はある程度達成できていると考えられる。DP2について少し低い評価であるので、さらに現代的課題に触れる内容に改善する必要が示唆される。

4. まとめ

初等生活を担当して4年目になる。昨年度は獣医師による特別講義を、今年度はとべ動物園教育係長による特別講義を実施した。学生には大変好評であり、効果もあると考えられる。このような特別講義の意義を学生が実感し、生活科で求められている異学年、学校外との交流について学生自らが企画できるようになれば幸いである。

現在の学生は生活科を履修しているが、自然や他人との交流についての体験が乏しい場合もある。特に自然体験については外遊びの減少などによって少ないため、身の周りの動植物への興味関心も低い場合がある。カラタチやサザンカ、キンモクセイなどの講義室周辺の植物についても気付いていない。できる限り様々な自然にふれあう機会を与える必要がある。

また、生活科の最終的な目標に「生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」とある。まずは学生自身が自立への基礎を養う必要があるように思えることがある。

